



インターナショナルセーフスクール通信

慈恩寺小学校の活動を紹介します Vol. 2

○安全診断の一環として校内のけがの状況をまとめています。

(※各学校でもこの手法を参考にして、自校における怪我の状況把握等にご活用ください。)

＜校内のけがの状況分析＞

保健室の来室記録データを、けがの人数や種類、けがをした場所などの観点別に集計。必要に応じてそれらに関連づけて再集計(クロス集計)することで、校内のけがの傾向を分析し、原因を特定することにより学校の安全対策に活用します。

【平成26年度 保健室クロス集計】

学年: 1年,2年,3年,4年,5年,6年

期間: 年間

縦:けが名	横:場合	授業前	授業中	休み時間	業間休み
すり傷					
とげ					
ねんざ					
つき指					
ふむ・はさむ					
打撲					

＜分析の例＞

【けがの発生状況】:昼休みの「すり傷」が多い。

【けがの分析】:校庭が多い。ボール遊びが多い。

:転倒によるけがは、低中学年が多い。

【重点課題】:昼休みの校庭の転倒によるけがを防ぐ。

【対策】:校庭の整備、転ばないように体を鍛える、約束やルールの見直し、安全・危険に対する意識の向上 等

【手法】:保健室の来室記録を用いたクロス集計

(例) 縦軸:けがの名前

横軸:場面

【保健室データの活用について】

分析(判断基準)

保健室の
来室記録
データ

- ・どうやってけがをしたのか(直接機転)
- ・何をしていた、けがにつながったのか(間接機転)

- ・けがの発生実件数、発生率を活用する。
- ・けがの発生場所や種類の多い事例の理由を調査し、原因の特定につなげる。

重点課題
の把握・
対策決定

○安全対策の一環として以下の取組を行っております。



小学校の校庭から道路に出る階段にカラーコーン、バーを設置して、飛び出しによる事故の防止を図っています。



廊下の掲示板に安全コーナーを設置して、児童や保護者・地域の方々に安全に対する様々な取り組みを紹介しています。



大きな通学路安全マップを作成し、地域の危険箇所の写真を載せて児童に周知しています。



児童ISS委員会が発足しました。(各委員会の委員長で構成されています。)校内のけがの状況及び原因について協議し、体や心の安全を守るためのアイデアについて話し合っています。